2022　年度　（令和　4　年度）　学校評価自己評価表

校番	福山市立　福山中・高等 学校
最終更新日	2022年(令和4年)10月28日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＯＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　自　校

前年度学校関係者評価の主な内容

〇中高の連携が見える形に取組内容がなっているとより良い。〇高等学校の受検倍率が上がった要因は何なのかをぜひ分析してほしい。〇コロナウイルスの影響でこういう結果だったということが分かるように線など引いておくと次年度以降の結果との差別化ができる。〇指標目標を達成しているのに，自己評価が低いところがある。指標を超えているのであれば相応の評価をつけ，指標が低いのならば見直しを図るべき。〇コロナ禍で，従来の通りの取組が困難で，目標達成が難しかった部活動や広報活動もあったが，良く取組まれている。

教育理念

生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し，溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに，持続可能な社会の創造に向けグローカルに活躍する人間を育成する

学校教育目標

旺盛な探究心，豊かな創造力，柔軟な思考力を育み，課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成

育成する力（21世紀型“スキル＆倫理観”）	探究心・創造力・思考力　コミュニケーション力　協働　チャレンジ精神
めざす生徒像	〇積極的に地域や社会に働きかけ，課題を発見し，よりよい価値の創造に向け努力する生徒 〇多様性を認め合う寛容さをもち，互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒 〇心身ともに健康で，困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒

現　状

中学校	高等学校
〈生徒〉 〇「通学マナーを守っている」に対する生徒の肯定的評価は96.8%と高いが，列車内及び登下校でのマナーにおいて地域から苦情が寄せられるという事実もあり，意識のズレがある。 〇教科指導，特別活動（学活・生徒会活動・学校行事），進路指導等，学校の取組に対する生徒，保護者の満足度，帰属意識は高い。「福山中で学んで良かった」（生徒），「福山中へ子どもを行かせて良かった」（保護者）に対する肯定的評価はそれぞれ92.7%，93.0%である。 〇「生徒会活動（委員会含む）に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は82.1%である。また，「友達を大切にしている」に対する生徒の肯定的評価は98.6%である。 〇「自ら挨拶している」に対する生徒の肯定的評価は96.8%，他者評価の視点から更に質の高い挨拶が求められる。 〇長期欠席者数は，26人である。	（生徒） 〇「国公立大学合格率在籍生徒数の50%」に対し49.7%，「難関国公立大学合格者数10名」に対し難関大・医歯薬獣医合計22名の合格。 〇国公立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は86%である 〇「福山高校の生徒は自分から挨拶をする」と肯定的評価が89.0%である。 〇生徒の肯定的評価は，学校行事については88.2%で概ね達成している。部活動加入率は88.1%であり主体的に取り組んでいる。
〈授業〉 〇中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において，昨年度の結果は国語84%，数学81%でいずれも市平均よりも大きく上回る結果となった。また，学力の伸びを把握する調査の結果より，学力を伸ばした生徒の割合は国語2年で36.2%，3年で48.7%，数学2年で56.9%，3年で79.1%であった。現在進めているＩＣＴを活用した主体的な学び，探究的な学びを通して，生徒は着実に力をつけてきている。 〇昨年度実施した学校評価アンケートでは，「主体的な学びをすすめるような授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が93.1%，「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」生徒が88.5%といずれも高評価であり，生徒の主体性の高まりが見られる。また，「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は83.3%であり，教員の意識も高い水準である。 〇今後も，校内研修の充実を図るとともに，数学，英語での習熟度別のきめ細かな少人数授業，総合的な学習で取り組んでいる探究学習「My探究」，全教科でのICTを活用した多様な学習，課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導，ＥＳＤの視点を加味した授業研究に取組み，生徒に「21世紀型スキル＆倫理観」を育成する。	（授業） 〇生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は84.7%。教職員アンケート「カリキュラムマップを活用した授業を実践した」の肯定的回答は43.5%。 〇「資質・能力の向上に努力にしている」６７．８%，ルーブリックの「表」／「課」の伸長率は４年１．９→２．６／１．８→２．５　５年２．７→３．０／２．５→２．９　６年２．９→３．２／２．９→３．１。 〇コロナ禍で活動が制限されたが，生徒の自己達成感は高められた。 〇継続して，授業の工夫について，ホールスクールで取り組む。

研究	テーマ	グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか
	内容等	・「主体的・対話的で深い学び」の実践的授業研究 ・生徒の探究能力・コミュニケーション能力の育成を目的とした実践的授業研究 ・ESD２観点に基づいた資質・能力を育成するための授業づくり（総合的な探究（学習）の時間・特別活動の創造）
めざす授業の姿		（１）　「主体的な学び」の過程が実現できている授業 ①　学ぶことに「興味や関心」を持っている。 ②　自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。 ③　「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。 ④　自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。 （２）　「対話的な学び」の過程が実現できている授業 ①　「生徒同士の協働」を通じ，自己の考えを広げ，深めている。 ②　「教職員や地域の人との対話」を通じ，自己の考えを広げ深めている。 ③　「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ，自己の考えを広げ深めている。 （３）　「深い学び」の過程が実現できている授業 ①　知識を相互に「関連付け」てより深く理解している。 ②　情報を精査して「考えを形成」している。 ③　問題を見いだして「解決策」を考えている。 ④　思いや考えを基に「創造」している。

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して，キャリア形成に向け，主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的・基本的な知識，技能を備えた生徒	・生徒に課題設定をさせたり，自主学習を充実させたりする。	・「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒を９０％以上とする。	・現時点で，肯定的に回答した生徒は，74.4％である。	３	２	生徒が自ら課題を設定し，自主的に学習に取り組めるよう，学習方法についての指導を引き続き行う。					
			継続	知識，技能を活用して思考，判断，表現することができる生徒	・知識，技能を活用して，思考・判断・表現させる内容の授業を行う。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒の割合を85％以上とする。 ・定期テストにおいて活用問題の得点率を60％以上とする。	・アンケートの質問で肯定的に回答した生徒は76.9％である。 ・定期テストにおいて活用問題の得点率は68.2％だった。	３	３	授業参観weekや校内研修から，互いの良さを学び合う中で，授業改善を図る。 各教科で思考・判断・表現させる場面を設定する。					
			継続	高い志を持って主体的で，多面的な学びに向かうことができる生徒	・総合的な学習の時間や進路希望調査前の学活で，自己をみつめ，将来なりたい自分（職業）を考える時間をとる。	・自分には「進路について考えている，または明確な目標を持っている」と答える生徒を85％以上とする。	・生徒アンケートでは，現時点で肯定的に解答した生徒は59.0％であった。	３	２	総合的な学習の時間や学活において，将来なりたい自分（職業）について考える授業を実施する。					
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して，自他を尊重し，他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	・主体的に挨拶ができる生徒 ・社会人として必要なマナーを身に付けた生徒 ・充実した学校生活を送るための自己肯定感の高い生徒	・生徒会活動を中心に挨拶を活性化する。	・「自らあいさつをしている」と回答する生徒を90％以上とする。	・現時点で，肯定的に回答した生徒は，82.7％である。	３	３	生徒会活動や集会を通して，質にもこだわりながら啓発を行っていく。また，教員によるあいさつ先行も実践し，あいさつの活性化につなげる。					
					・生徒指導規程を周知し，登下校マナーや学校や社会のルールについての指導を充実させることで生徒の自律意識を高める。	・「登下校のマナーを身につけることができている」「場面に合わせた行動を自分で判断して動けている」と回答する生徒を80％以上とする。	・肯定的に回答した生徒は，92.9％（登下校のマナー），88.3％（場に応じた行動）であった。	３	４	SHR，学活，集会，通信，生徒会活動などを通して引き続き呼びかる。					
					・不登校（長期）生徒数ゼロに向けて取組を充実させる。	・長欠ゼロ実現の為の担当者会を週に１度開催し，年間30日以上の欠席者数を２０人以内とし，新規不登校者を０人にする。（昨年度２６人）	・担当者と各担任での情報共有等を行い，長欠を減らす取り組みを行っている。９月末現在で長欠者は7人，不登校は5人である。	３	３	カウンセラーや関係機関，担当との連携を密に行い，生徒が意欲的に生活ができる取組を担任とともに行u。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	福山中	学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して，自他を尊重し，他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒（教科「道徳」を通じて）	・生徒が自分の問題として「考え，議論する」道徳の授業を行う。	・「道徳の授業を通して，『よりよく生きること』について考えることができた」と回答する生徒の割合を９０％以上とする。	・生徒アンケートでは，現時点で肯定的に回答した生徒は85.0%であった。	３	３	引き続き，生徒の現状に合った道徳教材も活用しながら，「考え，議論する」道徳の授業を行っていく。					
			継続	主体的な関わり合いを持ちながら共に伸びる生徒	・学級活動，学校行事や生徒会行事を通して人間関係の構築を促す。	・「あなたは友だちを大切にしている」と回答する生徒を100%とする。	・生徒アンケートでは，現時点で肯定的に回答した生徒は，93.5%であった。	４	４	引き続き，学校行事や生徒会行事を通して集団づくりに取り組み，生徒同士のつながりを深めさせる。					
			新規	健康な生活に向け，自らの生活を改善できる生徒	・学期ごとに振り返りを行い，特に長期休暇の生活を意識させる。	「三点固定ができている」と回答する生徒を80%以上とする。	・生徒アンケートでは，現時点で肯定的に回答した生徒は，75.0%であった。	３	３	引き続き，学期ごとに振り返りを行い，特に長期休暇の生活を意識させる。					
	国際課題，地域課題について探究し，持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	地域を知り，地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で，社会とつながる取組を行う（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD３プロジェクト」ルーブリックの①地域課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは，第２回が未実施のため比較はできないが，春の実施では①地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中，2.48ポイントだった（昨年度末2.4ポイント）。 ・2学年では，夏休みに職場訪問で地域の人や企業を訪れた。	３	２	2学年で行った取組を，学年全体に広げるだけでなく，My探究で校外とつながりを持てるように取り組む。					
			継続	国際交流や国際課題に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間や教科の授業等で，浦項大東中学校，ダウンラウンズカレッジ等との国際交流を図る（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD３プロジェクト」ルーブリック②国際課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは，第２回が未実施のため比較はできないが，春の実施では②国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中，2.47ポイントだった（昨年度末2.5ポイント） ・３年生では，ベトナム・フエ市の教育視察団との交流を実施できた。	３	２	浦項大東中学校や国際交流団体との交流を他学年でも実施し，世界への興味関心を広げさせる。					
			継続	自尊心を高め，学びを活かしライフプランを設定し，よりよい在り方生き方を考える生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で，社会とつながり自分自身について考える取組を行う（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD３プロジェクト」ルーブリックの③在り方生き方探究のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは，第２回が未実施のため比較はできないが，春の実施では③在り方生き方探究の平均ポイントは5ポイント中，2.52ポイントだった（昨年度末2.5ポイント） ・２学年では，職場訪問を通して，自分の進路を考えるよい機会となった。	３	２	進路指導の時間を設定し，自らの将来に向けたより良い在り方生き方について考えさせる。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。 【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し，本校の取組を校内外に広く発信する広報官としての意識を持つ教職員	小学校と連携し，オープンスクールや本校の学校行事や教育活動について，小学生の関心意欲を高めるとともに，中学校受検者数の増加につなげる。	オープンスクールへの参加者数を750 人以上，受検倍率3.2～3.5倍を目指す。	オープンスクールの参加予定者は772名で，目標を達成できた。	３	４	受検者数を増やすために，使用可能な媒体を積極的に活用して情報発信し，目標達成を目指す。					
						学校行事や本校の強みをＨＰ等を使い，学期数回（２～３回程度）情報提供を行う。	ＨＰによる情報提供については，目標を達成できている。また，クラスルームで学年のサイトを作成するなど情報発信を機会があるごとに行うことができた。	３	３	本校の生徒に係わる情報はクラスルームを活用し，発信していく。また，ＨＰを活用し，情報発信を行うと共に生徒会新聞を地域に回覧するなど本校への関心を高めていく。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して，キャリア形成に向け，主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的，基本的な知識，技能を備えた生徒	・基礎基本の定着を意識した授業を行う。	・学校評価アンケート（生徒）で「授業の理解」85%以上とする。	学校評価アンケート（生徒）79.5%。	３	３	各教科で，生徒が「分かった」「できた」と実感できる授業づくりを進める。教科主任会で交流する。					
					・カリキュラムマップを効果的に活用した授業を行う。	・学校評価アンケート（教員）「カリキュラムマップを活用した授業を実施した」70%以上とする。	学校評価アンケート（教員）50%	３	２	各教科で，カリキュラムマップに基づいて教育課程の実施状況を確認し，改善する。教科主任会で交流する。					
			継続	知識，技能を活用して思考，判断，表現することができる生徒	・「３つの学び」を意識した授業の工夫を行うことにより，生徒の６つの資質・能力を高める。	・「３つの学び」を意識した授業を行い，ルーブリックの資質・能力の内，「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率が20%以上とする。	「資質・能力の向上に努力」した生徒は77.0%。ルーブリックは，現行版で実施（第2回は12月実施）。第1回の結果は以下の通り。 ４年：表2.1，課2.1 ５年：表2.4，課2.4 ６年：表2.9，課2.9	３	３	ルーブリックの平均値は第２回との比較を待つ。２学期は探究の時間に発表の機会があり伸長が期待できる。ビジョンⅤの資質・能力対応型の新規ルーブリックを年内に作成する。					
			継続	高い志を持って主体的，多面的に学びに向かうことができる生徒	・国公立大学受験を前提とした進路指導を行う。 ・ＬＨＲや学年集会等を通して，全員が国公立大学を受験し合格を目指す雰囲気をつくる。	・進路希望調査で,国公立大学を第１志望とする生徒の割合を80%以上とする。	国公立大志望者4年89%，5年67%，6年73%。学校平均77%	３	３	学力向上により自信をつけさせると共に，国公立大進学を意識づけるための指導を，面談，集会等を通じて行う。					
						・進路希望調査で,難関国立大学を第１志望とする生徒の割合を10%以上とする。	5年生難関大志望者19名，6年生7月模試時点での難関大志望者33名17%	４	４	各学年，担任で中長期的展望を持った指導を個人を対象にして行うとともに，難関大を意識した指導により教科学力の向上を目指す。					
						・共通テストを受験する６年生の割合を95%以上とする。	6年生共通テスト出願者数185名，96%。	３	５	達成した。					
					・細やかな教科指導と個人面談を通して，５教科７科目を共通テストまで頑張らせる。	・国公立大学合格延べ数を99人以上とする。（過年度生含む）	6年生国公立大希望者140名，73%	３	３	生徒への細やかな対応を進める。生徒面談の重視，学年･進路･教科での連携強化，明確な指針を得るためのデータ提供に努める。					
					・ＩＳＳＰ，ＩＴＫＰによる難関大学を目指し切磋琢磨する集団を早期に形成していく。	・難関国立大学合格延べ数を15人以上とする。（過年度生含む）	6年生７月模試時点での難関大Ｃ判定以上　18名，9%	４	３	ミニ読解会議と進路読解会議で，共通テ有推薦と前期入試の受験先の指導を的確に行う。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して，自他を尊重し，他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	生徒の自己分析を促したり，ネットリテラシーを育んだりするような教材を開発し，年２回程度実施可能な学年においてLHRで取組を行う。	自己肯定感や，ネットリテラシーに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合８０％以上とする。	ＳＮＳについてのリテラシーについては4月に各学年の集会やＬＨＲで実施した。生徒の「モラルを理解している」の解答が９５．４％であった。また6月には「スマホ携帯の学習会」を実施した。,	4	4	4年生・5年生での10月実施予定のＬＨＲにてＳＮＳを利用する場面等において自分の気持ちの伝え方について,少人数ロールプレイを通じて体験させる。					
				社会人基礎力（礼儀・マナー，自律）を身に付けた生徒	前期と後期に分けて生徒指導重点目標を設定し，それぞれにおいて指導項目を焦点化することで教職員による組織的な指導を行う。 遅刻指導の仕組みを改善し，より実効的で柔軟な対応が可能な指導を行う。	礼儀，マナー，挨拶に関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合80%以上とする。	礼儀・マナー・挨拶について委員会活動がポスター作成や演劇部協力のもと,ビデオ作成,啓発により一定の成果がでた。生徒の肯定的評価９５％	4	4	後期の重点目標「時間を大切にする市立生」も同様に委員会活動を通して社会人基礎力をみにつけていく。					
			継続	部活動や学校行事，生徒会行事に主体的に取組む生徒	・一樹祭等を通じて生徒の主体的，自治的活動を促進する。	・「本校の学校行事は，生徒の自主的，自治的活動になっている」という項目に対し，肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果では肯定的解答が86.3%であった。	4	4	できる限り行事を中止しないようにコロナ対策を講じながら生徒主体で行事を推し進めていく。					
					・各部活動が自らの活動を発表したり，学校行事等で活躍できたりする場を設ける。	・部活動加入率を80%以上とする。 ・「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する生徒を部活動加入者の80%以上とする。	部活動加入率は73.1％である。「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する割合は86.3%であった。	3	4	引き続き，各部活動が自らの活動を発表したり，学校行事等で活躍できたりする場を設ける。					
					心身の発達に応じて体育祭、スポーツ大会等を計画的に実施する。	・「あなたは体育祭、スポーツ大会などに積極的に参加している」という項目に対し，肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートにこの項目が無かったので結果は不明。体育祭は積極的に参加していたように見えた。	3	3	できる限り行事を中止しないようにコロナ対策を講じながら行事を推し進めていく。					
			継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・すべての委員会活動を活性化させ，各種委員会における自主的，自治的な活動を推進する。	・「あなたは委員会活動などに積極的に参加している」という項目に対し，肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果では肯定的解答が74.1%であった。	3	3	コロナ禍により学校がリモートとなるなど，委員会活動の機会が少なくなった。委員会活動の場を増やしてしていく。					
	国際課題，地域課題について探究し，よりよい価値の創造に向け努力し，多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	地元企業と連携した探究学習を通して，地域を知り，地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・グローカル人材育成事業により企業研究を行い，企業に対し提案を含めた高校生がつくる高校生のための企業ガイドブックを作成する。	・「地域の企業や課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して対象の4年生の学校評価アンケートで肯定率を80%以上とする。	「地域企業研究」は，全学年を通して66.7%，企業研究に取り組んでいる4年生で肯定率は67.2%であった。	3	3	「HiHiふくやま2022年度版」の作成や発表会・プレゼンなどの取り組みを行っていくことで，地域への理解・関心度の向上をはかる。					
				ユネスコスクールとして，国際交流や国際課題に挑戦する意欲と態度を備えた生徒	・修学旅行などの海外研修を通して国際課題解決に向けたレポートの作成・発表を行い，「夢プロ」では国際課題に関するプログラムに積極的に参加する。	・「国際課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して5年生を対象として学校評価アンケートで肯定率を60%以上とする。	肯定率は，全学年を通して65.8%であり，修学旅行や国際課題に取り組んでいる５年生の肯定率は，61.9%となっている。	3	3	学年での「夢プロ」発表会の充実や，修学旅行を通して地域の伝統文化を体験することで肯定率の上昇が期待できる。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	国際課題，地域課題について探究し，よりよい価値の創造に向け努力し，多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	旺盛な探究心，課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し，よりよい在り方生き方を考える生徒	・「総合的な探究の時間」で行われる「グローカル人材育成事業」や「夢プロ」,その他の様々な教科から現代社会の課題を学び,その上で自身の在り方や生き方を考察させる。	・「社会や身の回りの様々な今日的な諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を８０％以上とする。	全学年を通しての肯定率は71.1％であった。各学年別では4年生が67.2％，5年生が65.1％，6年生が81.7％となっている。	３	３	主として4年生の「地域企業探究」や5年生の「夢プロ」での取り組みを充実させる。また学年を超えての発表会を通して生徒同士の学びを共有し，諸課題に対する共通理解を深める。					
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し，本校の取組を校内外に広く発信する広報官としての意識を持つ教職員	・中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い，意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。	・オープンスクールへの参加者200人以上，最終の本校受検倍率1.３倍以上とする。	オープンスクールの参加は２５０名と目標値を上回った。昨年度比43％増加した。	４	４	・体験授業の実施など，新しい試みで参加者の満足度は向上した。対面での実施，在校生の参加も復活でき，創意工夫を凝らした本校の魅力発信に一定の成果があった。今後は，本校に対する興味関心を高めるホームページの内容の充実を図る。					
					・ＨＰやブログを頻繁に更新し，持続的で魅力ある情報を保護者，地域に発信する。	・ホームページの月別更新回数を８回以上とする。	遠足などの延期など行事が減った関係で更新回数は減ったが，月平均8.3回と目標を上回っている。	３	３	・今後も引き続きリアルタイムでの情報提供を積極的に行う。特に本校教育活動の情報と生徒の活躍を配信する。予算と許可が取れ次第ホームページのリニューアルを行う。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中・高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	働き方改革に取組み，教職員の健康増進と教育の質の向上を図り，教育公務員としての自覚と使命感を持つ。【信頼される学校】		継続	教職員の超過勤務時間削減	・月1回の一斉退校日を徹底するとともに，現行の業務内容について点検，見直しを行い，業務改善を推進する。	・1か月の時間外労働が80時間を超える職員を0人にし，月45時間以内の人数を増やす。	月1回の一斉退校日を徹底することはできた。教員間の業務量の差を解消することが十分に行えず，80時間を超える職員は昨年度より減少しているが月平均7人である。45時間以内の職員は昨年度より微増である。	3	2	業務改善の視点を持って各校務を見直す意識，自分たちが職場において健康でやりがいをもって勤務できる環境づくりにつながるという意識を持つための方策を衛生委員会でも協議するとともに，職員研修を実施する。					
			継続	法令遵守の自覚と使命感を持つ教職員	・年間計画に基づき，不祥事防止研修研修を実施するとともに，当事者意識を高め，不祥事の未然防止取組む。	・毎週初めの職員朝会で不祥事防止に係る研修を実施する。不祥事防止研修は５回／年以上実施する。	毎週不祥事防止に係る研修を職員朝会で実施し意識を高めた。全体研修は３回実施し，不祥事のない職場環境を維持している。	3	3	不祥事につながる恐れのある事例は全体共有するとともに，風通しのよい職場づくりのために教職員間のコミュニケーションを大切にする。また，本校生徒への愛情や本校に勤務していることの誇りと自覚を高める働き掛けを行う。					

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80％以上100％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60％以上80％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40％以上60％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40％未満の達成度	目標を達成できなかった。